

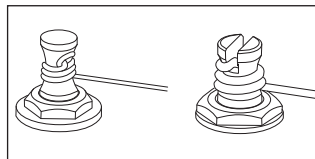
Ibanez

メンテナンスマニュアル

弦の交換

弦は使用しているうちに劣化し性能が低下するため、ビレや音程の狂いが生じることがあります。弦に錆や変色が見られる場合や、音質の低下、音のピリつきが酷くなったと感じた場合には弦を交換してください。全ての弦を同時期に交換されることをお勧めします。折れ、ねじれ、傷等がある弦は本来の性能を発揮できませんので、ご使用にならないでください。

弦は糸巻き(ペグ)のポストから下へ2~3回、長さにしてギターは5~7cmを、ベースは8~10cmを目安に、弦が交差しないように巻きまします。交換作業に際しては全ての弦を一度に外してしまうのではなく1本ずつ交換を行うことで、ネックにかかる急激な力の変化やトレモロのバランスを崩してしまうリスクを軽減できます。



※ トレモロ/ブリッジに取り付けられた弦の着脱方法は、搭載されているトレモロ/ブリッジにより異なります。

詳しくは弊社webページ(<http://www.ibanez.com>)をご覧ください。

チューニング

Ibanezのギターは、出荷時に下記のチューニングで各部の調整を行っています。

■ギター

	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th
6-strings	E	B	G	D	A	E	-	-	-
7-strings	E	B	G	D	A	E	B	-	-
8-strings	D#	A#	F#	C#	G#	D#	A#	F	-
9-strings	E	B	G	D	A	E	B	F#	C#

■ベース

	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th
4-strings	G	D	A	E	-	-
5-strings	G	D	A	E	B	-
6-strings	C	G	D	A	E	B

一部例外モデルもございますので、詳しくは弊社webページ(<http://www.ibanez.com>)をご覧ください。

演奏、調整の際はチューニングメーターや音叉等を使用し、各弦の開放音を上記の音程にチューニングしてください。音程が高い場合は一度弦を緩めて音程を少し下げた後、巻き上げながら音程を合わせるようにするとチューニングが安定しやすくなります。表の音程以外でチューニングをする場合、または標準と異なるゲージの弦を使用する場合には、ネックの調整やイントネーションの調整が必要になる場合があります。

⚠️ ご注意

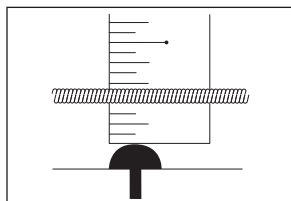
- ・ 極端なチューニングやエレキギター弦以外の弦の使用は、部品の破損や思わぬ怪けに繋がる場合がありますのでご注意ください。



弦高

弦高とはフレットと弦との距離のことです。

弦高の測定は、正確にチューニングを行った後、14フレットに定規をあて、フレットの先端から弦の下端までの距離を測定します。
弦高の目安は、1弦で1.5～1.7mm、6弦で2.0mm～2.2mmです。
7弦ギターの場合は7弦で2.2mm～2.4mm、8弦・9弦ギターは8弦で2.4mm～2.6mmになります。
ベースは、12フレット部の高音弦側で約2.0mm、低音弦側で約2.5mmが一般的な演奏性のための目安となります。



上記の弦以外の弦高は、1弦から最低音弦へ向かって徐々に隙間が大きくなるように設定してください。弦高が高すぎると演奏性が悪化し、低すぎると弦ビレや音詰まり、サスティーンの劣化等を招きます。弦高を適正な値にしても弦ビレや音詰まりが発生する場合には、ネックの反りを調整する必要がある可能性があります。

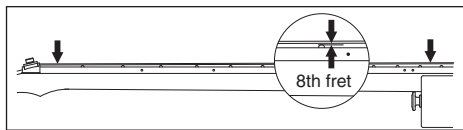
※ 弦高調整の方法は、搭載されているトレモロ/ブリッジの種類によって異なります。

※ スタッド・ロック機構付きトレモロの弦高調整は、スタッド・ロックが解除されていることを確認してから行ってください。

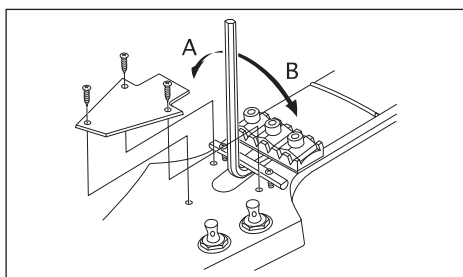
詳しくは弊社webページ(<http://www.ibanez.com>)をご覧ください。

ネック調整

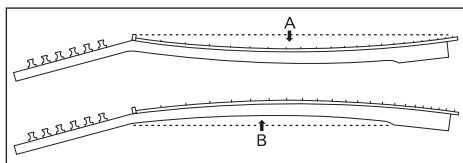
ネックには常に弦の張力がかかっており、チューニングの状態や弦のゲージを変更したときだけでなく、温度や湿度の変化によっても反り具合が微妙に変化します。適正な弦高調整とチューニングを行ってもビレや音詰まりが発生する場合は、ネックの反り具合を確認し、調整する必要があります。



1. ネックの状態を確認します。正確にチューニングを行った後、演奏時の状態にギターを持ち、1弦の1フレットと、ネックとボディの接合部分に最も近いフレットの両方を押さえた状態で、8フレットでの弦とフレットとの隙間を測ります。同様に最低音弦でも測定し、それぞれの隙間が0.3mm～0.5mmになるように調整します。



2. 隙間が0.3mmより小さい場合は、ネックのヘッド側、もしくは付け根側に取り付けられたアジャストナットを六角レンチやソケットレンチを使用してA方向へ回して、ネックを順反り方向へ動かします。



3. 隙間が0.5mmより大きい場合は、アジャストナットをB方向に回して、ネックを逆反り方向に動かします。

※ アジャストナットは1/4回転を目安に、チューニングを確認しながら少しずつ行ってください。





ご注意

- ・ ネックの調整には十分な注意が必要です。無理な調整は故障の原因となりますので、正しく調整ができない場合はお買い求めの楽器店または弊社へご相談ください。

弦長(イントネーション)

弦のゲージを変更したり、変則チューニングでギターを使用する場合には、全てのフレットで正しい音程が得られるように、弦の長さ(イントネーション)を調整する必要があります。

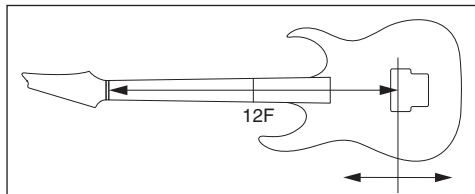
正確にチューニングを行った後、演奏時の状態にギターを持ち、各弦の12フレットを押さえたときの音と、12フレット上でのハーモニクス音とを比較します。

12フレット上でのハーモニクス音よりも12フレットを押さえたときの音の方が音程が低い場合は、トレモロ/ブリッジのサドルを前方に動かして弦長を短くします。12フレットを押さえたときの音の方が高い場合は、サドルを後方に動かして弦長を長くします。

※ 正確なイントネーション調整を行うため、チューニングメーターを使用してください。

※ サドル位置の調整方法は、搭載されているトレモロ/ブリッジにより異なります。

詳しくは弊社webページ(<http://www.ibanez.com>)をご覧ください。



お手入れ

演奏後は錆の発生を防ぐため、弦の裏側やフレット、ブリッジサドルやナット等の金属部品に付着した汗や油を拭き取ってください。金属部品に付着した埃や汚れ等は部品の機能に障害を及ぼすことがありますのでご注意ください。

通常の拭きあげでは除去できない汚れは、少量の油を染み込ませた柔らかい布を使用して除去します。

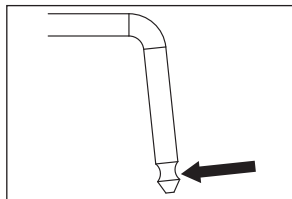
塗装面のお手入れは、揮発性の薬品や研磨剤の使用は避け、楽器専用のポリッシュを染み込ませた柔らかい布で丁寧に拭きあげてください。

オイルフィニッシュ仕上げのボディやネックの汚れを除去する場合は、消しゴムや#1000以上の細目のサンドペーパー、#0000のスチールワール等を使用してください。

年に1~2回、家具用等の無色の仕上げオイルやガンオイルを少量使用して拭きあげると、乾燥を防止することができます。

塗装が施されていない指板面には、指板用のオイルや良質のレモンオイル等を少量含ませた布で、フレットの際まで丁寧に拭いてください。

トレモロアームを回したときに異音が発生する場合は、トレモロアーム先端の窪み部分にグリスを塗布してください。



バッテリー

プリアンプやイコライザー等を搭載したギターには、バッテリーが使用されています。音量が小さくなる、音が歪む等機能の低下が見られる場合は、バッテリーを交換してください。

006P (9V) のバッテリーを搭載するモデルと、単三 (1.5V) 2本を搭載するモデルがあります。お買い上げのギターに搭載されているバッテリーの種類をご確認の上、同じタイプのバッテリーをご使用ください。

バッテリーはボディ裏側のバッテリーボックスに収納されています。

バッテリー搭載モデルは出力ジャックが電源スイッチを兼ねており、ジャックにプラグを挿入することで電源がオンになります。



ご注意

- バッテリーの消耗を防ぐため、長時間ご使用にならない場合はジャックからプラグを抜いて保管してください。
-

